
悲しみの連鎖

羽乃宮翼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

悲しみの連鎖

【Nコード】

N9912B

【作者名】

羽乃宮翼

【あらすじ】

闇の一族と光の一族の戦いから千年。再び戦いが始まろうとしていた。

プロローグ

昔この国には闇の一族と光の一族がいた。

彼らは互いに干渉せずに生きてきたが闇の一族が光の一族の土地が欲しくなり攻めてきました。

なんとか光の一族は闇の一族を引かせることができ長い間互いにまた干渉をしないことを約束しました。あの戦いはかなりの犠牲が出たからでした。悲しい犠牲だったと互いに反省をし互いに沈黙をしたのでした。

第一話 始まり

闇の国 ダークレッド国

「闇の一族こ

そ世界を統べるにふさわしい！」

「光の一族には死を！」

「闇にこそ力を」

そして光の国 ライニング国

その国に住む少年闇真 光へヤミマヒカリは自分の通う中学校の窓からぼんやりと外を眺めていた。

「平和だな。」

ぼつりと呟き校庭を見ると他のクラスが体育をしていた。

ダガガガガガガガッ

マシンガンの打つ音が響き体育をしていた生徒が次々に倒れていく。

「なっ!？」

光が驚きに声を上げるとスピーカーから

『我々は闇の一族だ!光の一族!貴様らに死を!』と男の声が響いた。

これが戦いの始まりだった。

千年に及ぶ互いの沈黙。

それを二つの一族は破り去った。

歴史から何も学んでいなかったのだ。

こうして平和は消え、戦争へとなっていった。

光の未来は・・・。

二つの一族の未来は・・・。

一体何処へ向かおうとしているのだろうか。

そしてなぜ闇の一族は千年の沈黙を破ったのか。

まだ光は何も知ることはなかった。

希望も絶望も。

自分の力も。

戦いの意味も。

自分のすべきことも何一つ知ることはなかった。

千年前の戦いが繰り返されることを誰が知っていただろう。

誰も夢にさえ思わなかっただろう。この世で最悪の戦いのことなど。

この世で一番の地獄の戦いなど。

この先地獄が待っていることなど誰も知らない。

今はただ怯えているだけしかできない。

第二話 恐怖

闇の一族の暴動により光の学校は攻め入られてしまった。

子供は全員体育館に集められ銃口を向けおとなしくしていた。

「ふえ・・怖いよう。」

「何でいきなりこんな目にあわなきゃいけないんだ!？」

各々思うことはある。

それは光も同じだからだ。

なぜこんな目にあうのか。

なぜ攻めてきたのか。

光にはまったくわからなかった。

「先生達は無事なのか？」

そう呟けば黙っていると殴られる。

だから光は何もしゃべらず沈黙を通した。

きつと殺されてはいないはずと思っていた矢先・・・

ダガガガガガガガガガッ

「ガッ!」

「ぐはっ!」

「ギャア!」

「!?!先生!?!」

マシンガンの打たれる音がして外を見てみれば打たれ血の海に沈んでいる先生達が倒れていた。

「ひっ！うわああああああああああ！！！」

「キヤアアアアア！」

ほかにも見に外へ出た生徒がいたらしく女子が悲鳴を上げる。

目の前で知っている人が無残にも殺された。

血の海に沈んでいる。

その場の生徒が今身を持って死を恐怖した。

そして闇の一族の暴動団と光の一族の中学生の戦いが始まった。

「許せねえ……。俺等が一体なにしたいってんだよ……。何で先生が殺されなきゃいけないんだよ。」

光はきつと闇の一族をにらみつけた。

「なんだ！！その目は！今すぐ殺されたいの……ガハッ！！」

詰め寄ってきた男を殴り武器を奪い光はその場の敵を狙い銃を撃った。

ダガガガガガッ！

「ガハッ！」

「グハッ！」

倒れ外で血の海を作っている先生同様の敵を見下ろし光は生徒全員に言った。

「俺等で先生の仇と自分の命……守るぞ……。」

光の言葉にその場の生徒全員がうなずいた。

第三話 気持ち

光が暴動団の見張りを殺し生徒を解放してから一時間光は武器をかまえ辺りを牽制していた。

「まずは武器庫に行って武器を奪う。半分はそれでもう半分は敵の様子を探りに行ってくれ。」

「わかった。じゃあ足の早い子が敵の探りにいくってことでいいからね？」

生徒会長である麗野辺 幸へまのべ みゆきは光の作戦にうなずきすぐに分ける。

足の早い順に五十人選びそれを分けて作戦に移った。

そして残った人は学校内にいる敵に見つからないように隠れていることとなった。

「それからこれ。さっき俺が殺した奴から奪ったトランシーバー。偵察組と隠れ組で持ってくれ。隠れ組で地図かなんかで印していけばいいだろ。」

「わかった。だけど地図は？」

幸はそう光に聞くと

「あの・・・地図ならあります。一年の時に書き記したのならまだ・・・。」

とおとなしそうな声で隠れ組の子が言った。
そしてがさがさとポケットを探り手帳を取り出した。
開いてみると丁寧な性格に印された学校の地図があった。

「私かなりの方向音痴なので地図がないと迷ってしまうんです。」

「あなた名前は？」

「葛城 清音へかつらぎ きよね〽です。」

「サンキュー清音！じゃあ作戦開始！！」

光の言葉で全員が動きだした。

光は武器庫らしき所の目星がついているらしくどんどん進んでいく。その間にもたくさん敵と会ったが光は迷いもせず打ち殺した。

学校がだんだんと赤く紅く染まっていった。

「・・・ここだ。」

あまり使われてない教室。

そこを開ければたくさん銃や爆弾があった。

「銃の弾やマシンガンを出来る限り持て。そんでさっさと戻るぞ？」

光がそういえばみんな言うとおりに動いた。

出来得る限り持つと隠れ組の待つ教室へと急いで戻る。

生き延びたいという気持ちだけで。

第四話 変化

死にたくない。

生きたい。

その思いが生徒達を動かしていた。

「俺たちは死なない。かならず生き残るんだ！」

生徒達は光をリーダーとし、生きるために只ひたすら動いていた。

テロ達を殺した。

生きるためならと思うと気にはならなかった。

「この学校に爆弾を仕掛けた。俺が囚になって奴らをひく。その間にみんなは逃げろ。」

光は自分を囚にしてみんなを逃がすことにした。

反対する者がいたがなんとか説得して実行することにした。

光がテロ全員を引き付けている間にみんなは外へ逃げる。

テロが全員校舎内に入るのを確認すると光は爆破スイッチを押した。

ドオオオオオオオオン!!!!!!!!!!!!

「光————！！！」

大爆発が起き、外に無事逃げる事ができた生徒は崩れていく校舎をみて光の名を呼んだ。

黒い煙が立ちこめ、所々火を噴く瓦礫の山と化した校舎。
泣き崩れる生徒達。

何が起こったのか状況の飲み込めない大人達。

すべてが終わった。

それを理解した大人達は喜び子供たちは絶望に涙を流した。

ガラッ。

崩れた瓦礫を見た子供たちは驚きに声を上げた。

数日後の病院の一室にはすべてを終わらした人物——光の姿があった。

あのあと、崩れた瓦礫の山から出てきたのは血塗れの光だった。

驚きに固まる子供たちに笑いかけたあと倒れ、この病院に運ばれた。

英雄と言われた光は窓の外を見ながらつぶやいた。

「沈黙じゃダメなんだ。」

そのつぶやきをきく人はいない。

「沈黙じゃ………何にも変わりはないんだ。」

空に手を伸ばしながら。

「僕達の関係が変わらないかぎり。」

天を見つめながら。

「歴史は繰り返される。」

空を掴もうと手を握り。

「闇も光も、互いが変わらないかぎり。」

天を意志を宿した瞳で見つめて。

「歴史は、悲劇は繰り返される。」

だから変えていこう。

自分の力で。

この世界を。

数年後。

光の力で闇の一族と光の一族は共存を果たした。

歴史はもう繰り返されない。

あの悲劇はもう二度と繰り返されることはない。

だから笑える。

自らが変わらなければ何も変わることはない。

「自分が変わらなければ何一つ変わることはない。」

F i n

第四話 変化（後書き）

完結しました。とてもへばい文ですいません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9912b/>

悲しみの連鎖

2010年11月12日11時20分発行